

## 何がどれだけ漁獲されているのか：深海性バイ類の 資源生物学研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010161">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010161</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



## 何がどれだけ漁獲されているのか：深海性バイ類の資源生物学研究

日本海区水産研究所 日本海漁業資源部  
海区水産業研究部

### 研究の背景・目的

1. 深海性バイ類は日本海固有水（水深200～300m以深）における重要な水産資源の一つですが、これまで漁業による利用状況すら把握されておらず、それぞれの市場における種名も混乱していました。また、資源状態の悪化も危惧されています。
2. 漁業上利用されているバイ類の種分類を精査し、確認された種の分布状況を調査するとともに日本海における漁獲量を集約します。また、資源管理・評価に欠かせない基礎的な生物特性を、それぞれの種について調査します。

### 研究成果

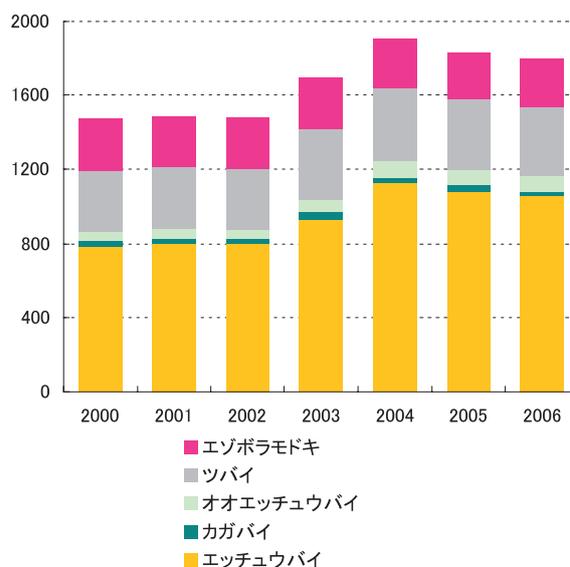
1. 青森県以南の日本海（200m以深）では、形態とDNAによって認識される3つの種群がきわめて優占的に分布していました。それぞれの種群について、妥当な種分類を考察しました（図1）。
2. 青森県から山口県まで12府県の協力を受け、

2000～2006年の漁獲量を積算するとともに、各種の分布状況等から日本海の魚種別漁獲量を推定しました（図1）。

3. 種々の漁獲試験を実施し、ツバイ、オオエッチュウバイ及びエッチュウバイの生物情報（雌雄別の成長、性成熟サイズや成熟時期等）について、多くの知見を得ました。

### 波及効果

1. 分類、分布、漁獲量、生物情報等の知見が整理・更新され、将来的な資源管理推進の基礎となります。
2. 隠岐島西方の日韓北部暫定水域では、韓国側によるかご網漁業が集中的に行われています。この海域では、商品価値の高いオオエッチュウバイにとっての好適水深（500～1,000m）下で、本種がほとんど認められませんでした。二国間協議の場において、こうしたデータの集積が今後ますます重要になります。



#### 【3つの種類】

1. エゾボラモドキ；2. ツバイ
3. オオエッチュウバイ、カガバイ、エッチュウバイ

図1. 青森県～山口県の日本海に優占的に分布する深海性バイ類（写真）と推定された日本海の魚種別漁獲量（単位：トン） 写真に付したカラーシンボルはグラフと対応する。